

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代思想
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻	一般	対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	適宜プリントを配布する。				
担当教員	箱山 健一				
到達目標					
現代における哲学的・倫理的な諸問題を検討することで、ものごとを多角的に検討する能力を涵養する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	倫理・環境・技術などに関して現代社会において問題たりうところを正しく理解し、説明することができる。	倫理・環境・技術などに関して現代社会において問題たりうところを正しく理解することができる。	倫理・環境・技術などに関して現代社会において問題たりうところを正しく理解することができない。		
評価項目2	一つの事गरらについて、自力で、複数の観点から検討することができる。	一つの事गरらについて、自らの見解と他者の見解を比較・検討することができる。	一つの事गरらについて、固定された見解しかもちえない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (E) (チ)					
教育方法等					
概要	現代における哲学的・倫理的な諸問題を検討することで、ものごとを多角的に検討する能力を涵養する。具体的には、科学・技術・医療・経営・環境に関する実際的な諸問題を理解し、それらについての説得的で重層的な議論を行うていく。				
授業の進め方・方法	本授業は、基本的には講義形式で行われる。受講の際には、言及される事गरらについての一問一答的な暗記に終始するのではなく、一つの哲学的な見解が提示されるに至るまでの過程を重視してもらいたい。 ※受講生の関心や授業の進捗状況等によって授業内容に変更の生じる可能性があります。				
注意点	既存の知識や常識、他者の見解に無批判に追従しないこと。自分の見解に固執して他者の見解を根拠なく排斥しないこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	現代思想に入る前の入門として、古代ギリシア哲学から近世哲学までの哲学史を概観する。(これを欠けば、「現代」思想を理解することは不可能である。)	
		2週	哲学の歴史(1): 哲学と学問	同上。	
		3週	哲学の歴史(2): 哲学と宗教	同上。	
		4週	哲学の歴史(3): 哲学とルネサンス/哲学と近代科学	同上。	
		5週	文献講読(デカルト①)	近代以降の哲学・科学を方向づけたデカルト(17th)の自我論について討議する。	
		6週	文献講読(デカルト②)	同上。	
		7週	文献講読(ニーチェ①)	西洋の伝統であったキリスト教道徳に反旗を翻した哲学者ニーチェの倫理思想について討議する。	
		8週	文献講読(ニーチェ②)	同上。	
	4thQ	9週	文献講読(脳はいかに意識をつくるのか①)	ノルトフ『脳はいかに意識をつくるのか』を読み、心の哲学(意識や精神について科学的に分析する)について討議する。	
		10週	文献講読(脳はいかに意識をつくるのか①)	同上。	
		11週	文献講読(ヴィトゲンシュタイン)	論理実証主義について討議する。	
		12週	文献講読(死とは何か①)	ケーガン『「死」とは何か』を読み、死について討議する。	
		13週	文献講読(死とは何か②)	同上。	
		14週	文献講読(死とは何か③)	同上。	
		15週	(期末試験)		
		16週	答案の返却および解説		
評価割合					
		試験	その他	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	0	80	
基礎的能力		0	20	20	